

FIDIC-YP Steering Committee Meeting

株式会社 日水コン 下水道本部事業開発部 担当部長
技術研修委員会技術研修推進分科会幹事
国際活動委員会 IFI 分科会員、YP グループリーダー 秋永 薫児

FIDIC-YPF Steering Committee meeting (S/C) は 9 月 27 日の 11:30-13:30 に行われた。

新しい S/C メンバー 4 人と新議長および継続メンバーの一人と旧議長の私が参加して行われた。新しいメンバーは 5 人であるが、一人は連絡が取れずに参加できなかった。その一人とは、YP Future Leaders Workshop で会うことができた。新しいメンバーはオーストラリア、シンガポール、イラン、英国および中国であり、継続メンバーはアメリカ、南アフリカ、イタリア、オーストラリアの合計 9 名となった。

会議では、午後に予定されている YP-Open Forum の内容の確認、昨年の活動で実行できた事とできなかった事の確認を行った。昨年は FIDIC - YPF のことを理解するのに時間がかかり、スタートが遅れたこと、互いに会うことなく、忙しい時間を縫って作業をしてきたことなど、新議長が 1 年間の活動実態を新しいメンバーに説明した。その後、Skype を用いた毎月の会議について説明がされたが、会社や国によっては Skype の使用が制限されていることがわかり、対策を講じることとなった。

来年の FIDIC 大会（シンガポール）へ話題が移り、YP の行事を最終日ではなく、会期の真中に持っていき、YP 用のワークショップの開催に努力することが話し合われた。YP にとって FIDIC 内に法律家や経済分析家などがたくさんいることに違和感を持つ、という意見から、基本はエンジニアであることを明確に打ち出そうということになった。FIDIC 参加のシニアと YP とは根本的に異なる集団であることから、昨年実行できなかったエンジニアリングコンペ（例えば、仮想都市建設）をベースにシンガポールでは新しい試みを行うことになり、シンガポールのメンバーに期待が寄せられた。今回、YP の Site Visit を実現したが、シンガポールでは Social なイベントも視野に入れた Site Visit やネットワーク会議を実現させたいと希望した。さらに、他の組織の YP グループの事例から、FIDIC-YP の活動を支えてくれるスポンサーが見つからないかとの問いかけに、シンガポールのメンバーが検討することになった。昨年の活動で構築した MA-YPF との連絡を強化するとともに、S/C の連絡を密にすることを誓った。新メンバーでの最初の電子会議は 10 月 5 日 GMT7:00 に行われる事となった。

Young Professional Open Forum

株式会社 日水コン 下水道本部事業開発部 担当部長
技術研修委員会技術研修推進分科会幹事、
国際活動委員会 IFI 分科会員、YP グループリーダー 秋永 薫児

YP の Open Forum は昨年の北京大会より行われ、FIDIC および YPF への理解を助ける場として、そして自由な意見交換の場として提供されている。

今年は、この場で新しい YPF の Steering Committee メンバーの紹介、日豪交換研修(YPEP) の報告、Net Discussion Forum (Online YP) の現状と今後の運営、および FIDIC 大会の評価について意見交換が行われた。新しい S/C メンバーは 5 名が入れ替わり、1 名が退会(議長の新旧交代) し、9 名となった。

YPEP の報告では、これまでの活動内容と 10 年を迎えた交換研修における問題点と今後のプログラム継続にあたって、ACEA と AJCE との取り組みについて報告され、会場から幾つかの質問が出た。その内容から関心の高さが感じられ、また、このような研修制度への期待感もあるようであった。

Net Discussion Forum は約 3 年間の経験をもつが、実質的な運営管理は行われておらず、入会も簡単にできるため、いくつものトピックスに対してのまとめや報告ができないままになっている。2 年前に会員規則作成と入会査定(各 MA による承認) の試みが行われた事例が述べられ、限られたメンバーでの討議形態についての提案があった。しかし、具体的な議論にならず、今後の課題として持ち越された。

FIDIC 大会への評価は、基調講演などは概ね良好であったが、講演者のキャンセルによる混乱には批判があった。要望として、YP 用の討議場所、ワークショップ、セミナーの開催が揚げられた。

その他、スイスからの参加者は、YP は長期休暇の取れる公務員希望が多く、コンサルタント会社への就職希望者が少ないので、もっと若い人を引き込めるようなプロモートが必要であると発言した。また、スウェーデン、オーストラリアやフランスからも YP 活動の状況についてコメントが寄せられた。現在、会員協会の YP グループが活動しているのは 8 カ国程度であり、ネットワークの強化が望まれる。

まとめとして、S/C は FIDIC に対する YP の " Voice " であること、YP の居場所を作っていくこと、YP の MA 間における交換研修が国際的な視野の拡大をもたらすことを述べ、YP の育成活動に強い関心を示していた。